

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

1 単元名 「知りたいな アジアの国」(異文化理解)

2 指導観

<こんな子どもだから>

1学期の国語科で朝鮮の民話「三年とうげ」の学習を通して、アジアの国の一つに触れることはできた。しかし、アジアの国の名前は知っていても、どんな文化があるのか進んで調べようとする意欲は不十分である。(関心・意欲・態度)

「聴くこと・話すこと」の取り組みは、共感的な態度で聴き合うことを通して、話したり聴いたりする喜びを少しずつ味わうことができるようになってきたが、相手の立場に立って考えたり行動したりするまでには至っていない。(技能・表現)

子ども達はこれまで他の国・文化に触れた機会は少ない。また、クラス替えの後なかなか新しい友達をつくれずにいる場面が多く見られ、新しい環境に置かれた時にどう行動すればよいのかまだ考えることができていない。(総合的な思考判断)

<こんな単元で>

本単元は、日本と歴史的・地理的に関わりの深いアジアの国々からの留学生との出会いを通して、それらの国々の文化に触れ、共に生きていこうとする異文化理解の態度を育てることをねらいとする。

アジア美術館の見学や福岡市のイベント「アジアマンス」の中核的イベント「アジア太平洋フェスティバル」を出会いの場として位置付け、見学を通してのイベントの価値や、そのイベントが開催される目的を考えさせたい。

留学生との交流を通して、異文化にふれる楽しさを味わわせるとともに自分もアジアの一員であることに気付かせたい。そして、自分達のもっている課題の解決の一つとし、これからの調べ学習に意欲をもたせる。

調べ活動や体験活動を通して、自国の文化との類似点や相違点に気付かせたい。人との関わりを通してアジアの国やその文化を知ること、知識としての外国ではなく、人とのつながりある身近な国として学ぶことは、国際化社会を生きていく子ども達にとって大切なことである。その基礎を養う上で意義深い活動としたい。

<こんな支援で>

「であう」過程では、アジアの国や人について知っていることや、抱いているイメージを出し合い、「考えマップ」に書かせる。「アジア太平洋フェスティバル」の見学を通して、アジアの国々の文化に触れ、興味・関心をもたせたい。またアジアの国からの留学生との出会いから追究課題を持ち、活動に見通しをもたせたい。

【知識的側面】・【価値的・態度的側面】

「さぐる」過程では、課題別のグループの仲間と一緒に協力しながら、課題に応じた方法(本・インタビュー)を活用し、課題を追究させたい。追究していく段階で、人との交流や体験活動を通してアジアの国々の文化を知って行くと共に、人の思いにふれ、自国の文化に気付いたり、自分がしたいことやできることを考えさせたい。

【技能的側面】・【価値的・態度的側面】

「まとめる」過程では、これまでの課題追究してきたことを生かして多くの人々にアジアの国々のよさを知らせる場を設定していきたい。そして、違いがあってもそれぞれを大切にしていこうとする態度を育てたい。

【価値的・態度的側面】

<めざす子どもの姿>

地理的に近いアジアの国々と私達の国の文化や習慣の似ているところや違いについて関心を持ち、意欲的に調べることができる。(関心・意欲・態度)

問題解決のために、本で自分なりに調べることができ、相手を意識しながら、自分の思いを分かりやすく伝えたり、すすんでコミュニケーションをとろうとしたりすることができる。(技能・表現)

アジアの文化や習慣を知るとともに、自分の文化だけではなく他国の文化も大切にしようと思われている方がいることに気づき、学級の中での仲間づくりにおける自他を尊重する態度を身につけることができる。(総合的な思考・判断)

3 指導計画 (30時間)

過程	主な学習活動と内容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>であう</p>	<p>1 アジアの国々に興味をもつ。 (1) アジア太平洋フェスティバルについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <課題意識> アジア太平洋フェスティバルを見学し、アジアの文化について調べよう。 </div> (2) 自分の課題意識をもって「アジア太平洋フェスティバル」を見学する。</p>	<p>アジアマンスの様子の写真を見せ、興味をもたせる。 地図を見せ、自分達もアジアの一員であることの意識を持たせる。 「考えマップ」に知っていることを書かせる。 グループごとに活動させる。 見たことや分かったことをしおりに記入する。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アジアマンズを見学して、アジアの人や文化に出会う。 <体験・交流活動 > </div>	
	<p>2 アジア太平洋フェスティバルで調べたことをまとめる。 ・なぜ毎年アジアマンズが開かれているのか、また、なぜ福岡にアジア美術館があるのかについて考える。 (子どもの意識) アジアの国の事をもっと知って、世界の人と仲良くしたい。</p> <p>3 学習課題を設定する。 (1) 共通課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <学習課題> アジアの国々のことをもっと詳しく調べよう。 </div> (2) 4ヶ国の中から調べたい国を決定し、ゲストティーチャーの方と出会う。</p>	<p>アジア美術館の見学を同日に行い、アジアの美術にふれさせる。</p> <p>思ったこと、考えたことを付け加えさせる。 これまでの活動を「考えマップ」にまとめ、調べたことや自分の思いを整理することで、自分の課題作りにかす。</p> <p>ゲストティーチャーの出身国を挙げて、その中から調べたい国を選ばせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ゲストティーチャーと出合い、思いや文化にふれる。 <体験・交流活動 > </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【ゲストティーチャー】 タイの学芸員 Aさん タイからの留学生 Bさん 韓国からの留学生 Cさん 中国からの留学生 Dさん ベトナムからの留学生 Eさん</p> </div> <p>それぞれの国の遊びをして楽しむ。 ゲストティーチャーの思いや文化について話を聴く。 ゲストティーチャーの思い ・日本のこと、日本の文化を勉強したい。 ・学んだことを役立てたい。 ・自分の国のことを教えたい。 (子どもの意識) ・同じような遊びがあるな。 ・食べるものがちがうな。 ・もっと知りたいな。</p> <p>(3) 交流活動を振り返り、追求課題を設定する。 <課題例> ・の遊びについてもっと知りたいな。私たちと似ているものはあるかな。 ・の食べ物について知りたいな。日本の料理ももっと知ってほしいな。 ・私達にどんなことができるか考えたいな。</p>	<p>事前にゲストティーチャーとの連絡を密にとり、交流の内容を確認しておく。</p> <p>遊びを通して親しみをもたせる。 進んでコミュニケーションをとろうとしている。</p> <p>「考えマップ」に交流活動で思ったこと分かったことをまとめる。</p>	

	<p>(4) 課題設定について聴き合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">聴き合い活動</div></p>	<p>「考えマップ」を使い、分かりやすく話したり、友達の話をしっかり聴くことを確認する。 振り返りカードをもとに自己評価する。 ・友達の考えに気付く。 ・自分の考えの広がり意識する。</p>
<p>さぐる</p>	<p>4 課題解決にむけて活動する。 (1) 学習計画を立てる。 (2) 課題別に追求する。 本や資料で調べる。</p> <p style="text-align: center;">ゲストティーチャーへ伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ゲストティーチャーへ自分達が調べたことや考えたことを伝える。 <体験・交流活動 ></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ゲストティーチャー】 タイの学芸員 Aさん タイからの留学生 Bさん 韓国からの留学生 Cさん 中国からの留学生 Dさん ベトナムからの留学生 Eさん</p> </div> <p>・ゲストティーチャーの話とつながりのある日本の文化を伝える。 ・分かったことや感じたことをまとめる。</p> <p>(3) 分かったことや感想をグループで聴き合う。 【3年〇組本時】 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">聴き合い活動</div></p>	<p>学習計画でつまづいている子どもには個別に支援する。 課題追求のための、資料・図書コーナーを設け、意欲的に活動できるようにする。 (資料・学校図書だけでは対応できないため、教師が各図書館等から借りて準備する。)</p> <p>1回目の交流で聴いた話から自分たちが考えたことや伝えたい日本の文化などを提案できるようにする。 分かったことや感じたことを書き込み、自分の考えを確認する。</p> <p>表現物で分かりやすく話す工夫をしたり、積極的・共感的に聴いたりすることを確認する。 「自国の文化だけではなく、他国の文化も大切にしよう」と考えている方がいることに気づかせる。 振り返りカードをもとに自己評価する。 ・友達の考えに気付く。 ・自分の考えの広がり意識する。</p>
<p>まとめる</p>	<p>5 課題についてまとめる。 (1) 新聞や模造紙に自分の学んだことをまとめる。 (2) まとめたことの中間発表をする。 【3年〇組本時】 (3) 中間発表の課題を受けて付加修正する。 (4) 学んだことの発表会を開く。 【3年〇組本時】 ・調べたことや、自分が感じ考えたことを発表する。</p> <p>6 学習したことを発信する。 (1) 「〇〇〇アジアマンス」の準備をする。 (2) くすの木文化祭で「〇〇〇アジアマンス」を開く。</p> <p>7 単元全体を振り返り、自分の考えをまとめる。 (1) アジアの国々について学習してきたことを聴き合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">聴き合い活動</div> (2) 自分の成長や生活を振り返る。</p>	<p>まとめる方法を今までの学習から想起させる。 アドバイスカード・振り返りカードで他者評価・自己評価をする。 何を学んだのか明らかにさせるようにする。</p> <p>効果的な発表ができるような場を設定する。</p> <p>分かりやすく話したり、積極的・共感的に聴いたりすることを確認する。</p> <p>振り返りカードをもとに自己評価する。 ・友達の考えに気付く。 ・自分の考えの広がり意識する。 自分も他人も大切にしようという考えの変化や広がり気付く。</p>

4 本時「発表をグループで見合い，工夫されているところや分かりにくいところを教え合う場面」
(2 6 / 3 0)

5 本時の目標

グループで協力して活動することができる。(関心・意欲・態度)
自分や友達の調べ方やまとめ方のよさや工夫点に気付くことができる。(思考・判断)
これまでに取り組んできた「調べてまとめてきた事柄」をそれぞれの表現方法でグループごとに発表し，気付いた点を教え合う。(技能・表現)

6 本時指導の考え方

前時までに，子ども達は，自分の調べたい国について調べ学習をし，調べたことを効果的に伝えるために紙芝居やクイズ・写真等の表現方法を使って，発表の練習をしてきた。調べる資料は学校にある図書室の本や教師が借りてきた図書館の本などである。また，大学の留学生にゲストティーチャーとして来ていただき，遊びを通して交流したり，日本に来てがんばっていることや困っていること，自国の文化についての話を聴いたりして体得したことも発表内容に含んでいる。

本時は，これまでに調べてきたことを，それぞれの表現方法で発表し，内容をさらに充実させるために，気付いた点をアドバイスし合い，調べもれがないようにする「中間発表会」である。

個人やグループで取り組んできた「調べてまとめてきた事柄」をより分かりやすく楽しく伝えられるように，お互いに見合っただけでアドバイスをし合ったり友達どうしで力を合わせたりすることで，よりよいものにしていくことをねらいとしている。

そのために，導入段階では，学習の流れを書いた図を示し，本時学習の見通しをもたせ，めあてをつかませたい。

展開段階では，同じ国を調べているグループどうしでペアになりお互いに発表を見合う。初めのグループの発表が終わったら，発表を見たグループが質問をする。質問の観点は，もう少し説明のつけ加えをしてもらいたいこと 疑問に思ったこと等である。質問に対しては，グループで相談して答えるようにする。答えられなかった事柄については，次時の発表会に向けての準備の時間に調べるようにする。

質疑応答の後，発表したグループは自己評価をする。(自己評価)

自己評価の観点は，声の大きさ 話す速さ 発表した感想である。

発表を聴いたグループは 声の大きさ 話す速さ 工夫されているところ 分かりにくいところの観点でよかったところをピンクのカード，改善点は水色のカードに記入させる。(他者評価)

改善点については，個人名を出さないように配慮し，進んでアドバイスを受けて次の活動への意欲づけをはかるようにしていきたい。

前半のグループが終わったら後半のグループと交代する。

伝え合いが終わったら，伝えて思ったことや気付いたことを全体場で発表する。自分や友達の調べ方，まとめ方のよさや工夫点を中心に発表させることで，よさの共有化をはかり次時への意欲へとつなげていきたい。

終末段階では，アドバイスされたことと自己評価をもとに次時の計画を立て，本時のまとめとしたい。

7 準備

子ども それぞれ発表に必要なもの(紙芝居，クイズを書いた紙，写真，絵など)

教師 学習の流れを示した図，アドバイス(他者評価)カード，ふりかえり(自己評価)カード

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 前時までの学習を振り返り，本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 本時のめあて > 調べてまとめてきたことが分かりやすくつたわるかたしかめよう。</p> </div> <p>2 活動の方法について知る。</p> <p>3 2グループごとペアになり伝え合う。 発表する。 (予想される課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さんの国にはどんな自然遺産があるのだろうか。 ・ さんの国の人達は，どんな家に住んでいてどんな暮らしをしているのだろうか。 ・ さんの国の子供達は，学校ではどんな勉強をしているのだろうか。 ・ さんの国の人達は，どんなものを食べているのだろうか。 ・ さんの国の人達は，どんな服を着ているのだろうか。 ・ さんの国にはどんな遊びがあるのだろうか。 <p>(予想される伝え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居 ・ クイズ ・ 絵 ・ 写真 <p>質問に答える。</p> <p>発表をしたグループは自己評価し，発表を聞いたグループはアドバイスカードに記入する。 (から が終わると，交代する。)</p> <p>4 友達の調べ方，まとめ方のよさや工夫点を発表する。</p> <p>5 アドバイスされたことと自己評価をもとに，次時の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会に向けて更に調べないといけない事柄 ・ 書き直さないといけない資料 ・ 発表の練習 	<p>今までの掲示物をもとに振り返るようにする。</p> <p>事前に子ども達が調べた事柄を把握し，必要に応じて個別に支援を行い，自信をもって交流できるようにしておく。 グループは同じ国を調べているグループどうして編成する。</p> <p>友達と協力して伝えようとしている姿を認める。</p> <p>もう少しくわしく聴きたい事柄や疑問に思ったこと等を質問するように促す。 質問に対してはグループで相談して答えるようにする。 アドバイスカードは，よかった所と改善点分かるように色分けをしておく。 アドバイスカード，自己評価カードに書く観点について知らせる。 発表の時の声の大きさ，話す速さ，工夫されているところ，分かりにくいところの観点でよかったところ，改善点をアドバイスカードに書く。(他者評価) 自己評価の観点は，声の大きさ，話す速さ，発表を終えた感想である。質問に答えられなかった場合は，質問事項を記入しておく。(自己評価) 進んでアドバイスを受けて，次の活動への意欲付けをはかる。 自分や友達の調べ方，まとめ方のよさや工夫点を中心に発表させ，次時に意欲をつなげる。</p> <p>何を書いているのかわからない子どもには個別に支援する。</p>

4 本時「調べ活動や交流活動を通して自分の考えを聴き合う場面」(23 / 30)

5 本時目標

これまでに調べてきたことや，ゲストティーチャーとの交流を通して感じたことをもとに自分の考えを聴き合おうとする事ができる。(関心・意欲・態度)

自国の文化だけではなく，他国の文化も大切にしようとしているゲストティーチャーの思いに気付くことができる。(思考・判断)

自分の考えをわかりやすく伝えたり，友達の考えを積極的に聴いたりして，自分の考えを広げることができる。(表現・技能)

6 本時指導の考え方

これまで子ども達は，アジアの国々について学習する前に知っていることや，予想したことを出し合い，調べ学習・交流学习を進めてきた。アジアマンスの見学や，本や資料を調べたり，ゲストティーチャーとの交流を経験し，自分達の生活とアジアの国々の文化との相違点や共通点を見つけたり，ゲストティーチャーの思いにふれたりしてきている。その相違点・共通点，そして，分かったことや思ったことを「考えマップ」に記入し，知識の広がりや自分の感想をまとめてきた。

また，「考えマップ」をもとに「であう」段階では，アジアマンスで見えてきたことやゲストティーチャーと出会って感じたことをいかして作った自分の学習課題の設定理由について聴き合い活動をしてきた。そこで，友達と同じように見つけたものや，自分が気にとめていなかったものについて聴き合うことで確認し，自分の考えに自信をもったり，友達の考えに気付いたりしてきている。

本時は，調べ学習やゲストティーチャーとの交流を通して自分の考えを聴き合う。自分が分かったことや考えたことを伝えたり，友達の考えを聴くことで，自国の文化だけではなく，日本の文化も大切にしようとしているゲストティーチャーの思いに気づかせることをねらいとしている。

導入段階では，これまでであったきたもの，例えば，アジアマンスの様子の写真やゲストティーチャーの写真などを提示し，子ども達がこれまでの学習を振り返りやすいようにして，本時のめあて「アジアの国の方々とともに仲良くなるためにどうすればよいか考えよう。」につなげたい。

展開段階では，自分の考え(調べ学習・交流活動を通して分かったことや思ったこと)について聴き合う。聴き手は，聴き方の約束をまもり，話し手の話を経験的な態度で聴くことが大切である。聴き合い活動の手順や態度をしっかりと確認させたい。話し手は表現物を用意して，聴き手に分かりやすく伝えるために工夫させたい。自分の話を受け入れてもらう心地よさを相互に味わいながら，友達の考え書き加え，自分の考えを広げさせたい。

聴き合い活動では，お互いに，自分の考えが伝わるように相手に分かりやすく工夫して話したり，うなずきや質問などをして真剣に聴いたりする，積極的な態度を大切に，「聴き方・話し方」の評価をさせたい。そして，子ども達が安心して自分の意見を話し，落ち着いて友達の意見を聴き，共有できる「支持的風土のある学級集団」をめざしたい。

友達の考えを聴き，考えを広げられないでいる子どもには，調べたことや思ったことを把握し，友達の考えとの共通点や相違点の付加できることを示すことで，活動をうながしたい。書き加えることで自信を持たせ，感想へとつなげられるよう励ましたい。

終末の段階では，振り返りカードをもとに，振り返りの視点(聴き合いの態度・友達の考えに対する気付き・自分の考えの広がり)にそって聴き合い活動を振り返らせたい。また，グループでの聴き合い活動の振り返りを学級全体で共有することを通し，集団のよさに気付き，自他を尊重する態度を育てることができると思う。

7 準備

子ども
教師

話す内容を書いた表現物

アジアマンスの様子写真，ゲストティーチャーの方々の写真
振り返りカード

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 これまでの活動を振り返り，本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジアマンスの見学 ・ 調べ学習 ・ ゲストティーチャーとの交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— <本時のめあて> —</p> <p>アジアの国の方々ともっとなかよくなるためにどうすればよいか考えよう。</p> </div> <p>2 一人ひとりの調べたことや考えを聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達の文化との違い ・ 自分達の文化と似ているところ ・ ゲストティーチャーの思い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 珍しい服を着ているのは さんが自分の国の習慣を大切にしていることだと思った。 ・ さんは食事の仕方が自分の国と違っていても日本の仕方で食事をするようにしていると聴いてすごいなと思った。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— <聴き手として> —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の考えを認めようとする聴き方の態度 ・ 考えを引き出すおたずね </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— <話し手として> —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをきちんと伝えようとする話し方の態度 ・ 分かりやすく話す工夫 </div> <p>3 友達の考えをもとに自分の考えを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの国から来られた方も自分の国の文化を大切にされているな。 ・ どの国から来られた方も日本の文化を大切にされているな。 <p>4 聴き合い活動を振り返る。</p> <p>(1) 振り返りカードを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><振り返りの視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴き合いの態度 ・ 友達の考えに対する気付き ・ 自分の考えの広がり </div> <p>(2) 振り返りを発表する。</p> <p>5 本時学習をまとめ，次時学習について知る。</p>	<p>本時のねらいを意識させるために，アジアマンスで見てきた物や，ゲストティーチャーの写真などを提示し，振り返ることができるようにする。</p> <p>表現物にに自分が調べたことや考えたことをまとめさせる。</p> <p>表現物の内容を整理する。 聴くことに興味を持たせるように別の国を調べた者どうしのグループで聴き合いの場を設定する。</p> <p>聴き合い活動の手順や態度について確認する。 積極的な姿勢で聴き，共感的な態度で受け入れ，お互いの考えが広がるように心掛ける。</p> <p>考えを広げられないでいる子どもには，事前にグループの考えマップを把握し，付加できるところや，友達との共通点を示す。 友達の考えを取り入れ付加していくことで考えを広げる。 自国の文化だけではなく，日本の文化も大切にしようとしているゲストティーチャーの思いに気付かせる。</p> <p>友達の考えを聴くことによる自分の考えの広がりを確認し，集団のよさに気付く。</p> <p>自己評価・感想を発表し合い，聴き合うことのよさを共有する。 振り返りの内容を板書して，全体に広げる。</p>

4 本時「アジアについて調べたことを発表する場面」(28 / 30)

5 本時の目標

自分のテーマについて調べてきたことを意欲的に友達に伝えたり，友達の発表を聴いたりすることができる。 (関心・意欲)

友達からのアドバイスをもとに，自分達の発表を見直すことができる。 (技能・表現)

6 本時指導の考え方

これまでに子ども達は，アジアマンス見学に行っているいろいろなアジアの国々に出会った。そこで，アジアの国々の文化に興味を持ち，各自の学習課題を設定するきっかけができた。そして，子ども達の課題別にグループを作り，調べる内容を分担してまとめてきている。また，国際交流でアジアの方（ゲストティーチャー）と出会って一緒に遊んだり，話をしたりする中で，多くのアジアの国々の文化について知ってきた。しかしそれだけではなく，ゲストティーチャーの方の日本の人々と仲よくしたいという思いや他国の様々な文かについても学び，自分達がこれから考えていかなければならないことをまとめてきている。

本時は，各自の課題ごとに調べたことや自分なりの考えを意欲的に発表したり，聴いたりする場面である。お互いに発表し合い，アドバイスカードを使ってお互いの発表のよい所やがんばりを認めてあげることが大切にしていく。そして，そのアドバイスカードを参考にしながら自分の発表を振り返り，自他を尊重していく態度を育てることをねらいとしている。

導入段階では，アジアマンスでのアジアの国々との出会いやゲストティーチャーの方との出会いを想起させ，本時学習のめあて「アジアの国々について調べたことをみんなに伝えよう」につなげたい。その時に，みんなに分かりやすく伝えるための「発表の視点」を提示し，しっかりとつかませておく。

展開段階では，話し手は，アジアマンスでの経験やゲストティーチャーの方との出会いからできた自分なりの学習課題を説明し，調べてまとめた内容を順序よく説明させていく。そして最後には，自分なりにこれからがんばっていこうとする思いを聴き手に分かりやすく伝えるようにさせたい。また，聴き手は聴き方の約束を守り，実践していくことを大切にさせる。お互いの発表を進めていく中で，お互いの話し方や聴き方のよさをアドバイスカードの中で認め合いながら，みんなの調べ学習の発表を進めていきたい。

自分のまとめを上手く発表できない児童に対しては，コメントによる励ましや個別指導等をを行い，自信を持たせ発表できるように支援をしていきたい。

終末の段階では，アドバイスカードをもとに「話し方・聴き方」の自己評価をさせる。その後，学級全体で反省や感想を振り返り，努力・協力することの素晴らしさを共有化することを通して，これからの調べ学習に対する意欲を高めるとともに，グループで協力することのよさを見直し自他を尊重する態度を育てることができると思う。

7 準備

子ども 各グループの発表資料

教師 アドバイスカード，自己評価カード，シール

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 前時までの学習を想起し，本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— < 本時のめあて > —</p> <p>アジアの国々について調べたことを発表してみんなに伝えよう。</p> </div> <p>2 グループごとに，まとめたことを発表したり聴いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き手はアドバイスカードを使って，他者評価をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— < アドバイスカードの視点 > —</p> <p>(聴き手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の理由はきちんと説明できていたか。 ・ゲストティーチャーの方の思いや願いに共有できていたか。 ・自分なりの考えを順序よく説明できていたか。 ・これから自分達がやるべき考えを持つことができているか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— < 話し手が整理しておく内容 > —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアマンス，ゲストティーチャーの方との出会いから課題設定まで ・ゲストティーチャーの方達の願いや思い ・調べた内容，自分なりの考え ・これからの自分達について </div> <p>3 今日の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— < 振り返りの視点 > —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き手，話し手としての態度 ・協力の態度 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— < 子ども達の反応 > —</p> <p>自分の考えをしっかりととはなせていたな。 うなずいて真剣に聴いてくれていたな。 アジアの国（他国）が分かったぞ。</p> </div> <p>4 次時学習について知る。</p>	<p>前時までの活動内容を掲示し，振り返りやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアマンス ・ゲストティーチャーの方々との出会い <p>発表の仕方や評価する視点を確認しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容 ・声の大きさ ・資料の工夫 ・協力 <p>メモを活用しながら，ゆっくりと大きな声で話すように助言する。</p> <p>聴き手は，アドバイスカードにシールを貼ったり，感想を書いて評価をする。</p> <p>他者評価は，よかった所・がんばっていた所に視点を置かせ，「よさ」という観点で評価をさせる。</p> <p>発表は手際よく進めて行くが，各グループの発表後に時間を確保し，聴き手としての評価（アドバイスカード）記入の時間を確保する。</p> <p>振り返りの視点に沿って，今日の学習を振り返らせる。</p> <p>『よさ』について評価させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表のよかった所 ・協力することのよさ <p>自己評価・他者評価を発表し合うことで，聴き合うことのできる支持的風土のある学級集団を共有する。</p>